

## 農村計画学会論文原稿作成要領（2016 年度）（種別 A）

研究委員会

以下の原稿作成要領を厳守すること。下記の要領から著しく逸脱した論文の受理は認められない。

### I 基本設定

- ①用紙：A4用紙を用いること。
- ②紙の置き方：縦置き
- ③文字方向：横書き
- ④1行の文字数：25文字×2段組
- ⑤1ページの行数：46行
- ⑥印刷フォント：MS明朝体を用いること（英文はTimes New Roman）。
- ⑦マージン設定：上端：30ミリ  
下端：20ミリ  
左端：20ミリ  
右端：20ミリ

（注：マージンを上記の通り設定しても、文字が溢れて下端の20mmが確保できない場合があります。そのようなことがないように、注意してください。）

- ⑧査読用原稿なので、著者名 **および謝辞** を伏せるとともに、著者名が推定できるような引用表記等は避けること。
- ⑨行番号を付けること（投稿原稿様式には行番号が付いています）。

### II 構成

#### 1 論文の構成

第1行：行空け

第2行：「論文名（16ポイント）」を行中央に配置する。1行に収まらない場合は、適切な箇所で区切って2行にする。2行目も中央に配置すること。論文名は、できるだけ簡潔にすること。なお、副題がある場合は10.5ポイントで記載すること。

第3行：「英文タイトル（9ポイント）」を行中央に配置すること。英文タイトル副題の文字の大きさは8ポイントとする。各単語の頭は大文字にすること。ただし前置詞などは大文字にしない。

第4行：行空けまたはタイトル記載

第5行：行空けまたはタイトル記載

第6行：行空けまたはタイトル記載

(論文名は、英文を含めて第7行目までに収まるようにすること。論文名が第7行目に及んだ場合は、氏名を第8行目に記載する等、それ以降1行ずつずれる。)

第7(8)行：「氏名(9ポイント)\*」(連名者を含む)を行中央に配置すること。

第8(9)行：「英文氏名(9ポイント)\*」(連名者を含む)を行中央に配置すること。

氏名、所属には、半角アスタリスク(\*, \*\*, \*\*\*)をつけて対応関係を明らかにすること。アスタリスクは、氏名の場合は後に、所属の場合は前につけること。

第9(10)行：「所属(9ポイント)」(連名者を含む)を括弧で括り行中央に配置すること。

第10(11)行：「英文所属(8ポイント)」(連名者を含む)を括弧で括り行中央に配置すること。

(投稿時は、氏名・所属部分を「行空け」にすること。)

第11(12)行：行空け(連名者が多い場合には、氏名・所属の記載に使用してもよい)

第12(13)行：行空け

第13(14)行：本行から本文が始まる。なお、本文は、2段組(25文字)とすること。

最初の見出しは、13(14)行目に10ポイントで、「1文字空け」+「ローマ数字で1」+「1文字空け」+「見出し」という形式で記載すること。ただし、見出しが1行に収まらない場合は2行目に記載する。2行目の記載は、2文字を空けた後に10ポイントで始めること。見出しは、簡潔なものが望ましい。

第14(15)行：行空け

第15(16)行：本文を9ポイントで記載すること。

以降、新たな見出し(Ⅱ, Ⅲ～)が登場する度に、第12(13)～15(16)行に関わる作業を繰り返すこと。なお、小見出しは1, 2, …(ゴシック)とする。

## 2 句読点, 読点

句読点は「,」, 読点は「。」を使用すること。

## 3 図表

①図表(写真を含む)には、印刷がモノクロ写真製版によることを前提に、鮮明なものをを用いること。図の濃淡, グラデーションの差は、明確に判別できるよう大きくすること。

②図表ナンバーはそれぞれ「表1」, 「図1」とすること。図表タイトルは9ポイント

とすること。ナンバー及びタイトルは、表の場合は上、図の場合は下に配置すること。  
図表に対する注釈は、8ポイントで挿入すること。

- ③表の一番上の罫線は二重線とし、左右の表側部分は罫線を引かないこと。図表中の文字は7ポイント以上とすること。

#### 4 謝辞

謝辞が必要な場合には、その内容は本文と注釈の間に8ポイントで記載する。ただし査読の段階では必ず伏せ、最終論文原稿の提出時に記載すること。

#### 5 注釈

注釈が必要な箇所には、注1)、注2)、……を本文該当箇所右肩に上付で明示すること(注番号は半角数字を使用)。注釈の内容は本文と引用文献との間に8ポイントでまとめること。なお、注釈の内容が2行以上にわたる場合、2行目以降は、先頭に2字分の空欄を挿入してから文章を続けること。

#### 6 引用文献

文献(ウェブサイトを含む)を本文中で引用する際は、1)、2)、…、n)の記号で本文該当箇所右肩に上付で明示すること(文献番号は半角数字を使用)。引用した文献(およびウェブサイト)は、本文の末尾に、8ポイントで引用順に一括掲載すること。文献(およびウェブサイト)の記載形式は、以下の通りである。なお、文献(およびウェブサイト)の記載が2行以上にわたる場合、2行目以降は、先頭に1字分の空欄を挿入してから文章を続けること。

1)論文：著者(出版年(西暦))：論文名、学会誌等名、巻(号)、該当ページ(○-○)。

[例]

1)農村太郎・計画花子(2002)：農村計画に関する新しい理論の展開—既存の計画手法を振り返って、農村計画学会誌，21(6)，150-159。

2)著書：著者(出版年(西暦))：『書名』．出版社名，出版社の所在地(例：東京)。

[例]

2)農村太郎(2000)：『農村計画学』．〇〇出版，東京。

3)編著書：著者(出版年(西暦))：題名(編者名、『書名』)．出版社名，出版社の所在地(例：東京)，該当ページ(pp.○-○)。

[例]

3)計画花子(2001)：都市近郊における計画理念(農村太郎編、『都市農村計画学』)。

××書店，東京，pp. 115-130.

4)英論文：著者（出版年(西暦)）：論文名．学会誌等名(斜字体)，巻(号)，該当ページ(○-○)

〔例〕

4)Noson, T. and Keikaku, H. (2000): A new strategy of Japanese rural planning –towards revitalizing rural economy. *Journal of Rural Planning*, 5(3), 121-130.

5)英編著：著者（出版年(西暦)）：題名：In 編者名(eds), 書名(斜字体)，出版社名，所在地(例：Tokyo), 該当ページ(pp.○-○)

〔例〕

5)Keikaku, H. (2002): Land-use changes in rural area: In Noson, T and Keikaku, H. (eds.), *Sustainable Rural Development*, Norin Press, Tokyo, pp. 61-85.

6)ウェブサイト：著者：該当ページの題名，ウェブサイト名，<URL>，更新日時，参照日.

〔例〕

6)農村太郎：都市近郊における計画理念，農村計画学会，  
<<http://wwwsoc.nii.ac.jp/arp/index.htm>>，2005年2月20日，2005年4月11日.

## 7 英文サマリー

引用文献の後に1段組で配置すること。9ポイントで，分量は100語程度とする。

## 8 キーワード

英文サマリーの後に1段組で配置すること。9ポイントで，日本語と英語の両方で記載する。

以 上